表 3- 8（イ）子どもを無視すること (%)

		N	よくある	しばしばある	たまにある	まったくない
有配偶	全体	736	0.7	5.8	38.3	55.2
	男性	272	0.4	3.7	30.5	65.4
	女性	464	0.9	7.1	42.9	49.1
無配偶	全体	28	3.6	17.9	17.9	60.7
	男性	6	16.7	-	-	83.3
	女性	22	-	22.7	22.7	54.5

表 3- 9（イ）子どもを無視すること（再掲） (%)

		N	よくある	しばしばある	たまにある・まったくない
有配偶	全体	736	6.5	38.3	55.2
	男性	272	4.0	30.5	65.4
	女性	464	8.0	42.9	49.1

有配偶・男女　$p<.001$　$\chi^2= 19.175$

身体的虐待傾向にある「(エ) 手や体をたたいて叱ること」は、有配偶全体では、「まったくない」27.1%、「たまにある」53.1%、「しばしばある」13.2%、「よくある」6.7%と、「まったくない」とする回答者の割合が低いことがわかる。特に、女性が行う頻度は高めで、有配偶女性の 8.0%が「よくある」、15.6%が「しばしばある」と回答している（表 3-10)。

表 3- 10（エ）手や体をたたいて叱ること (%)

		N	よくある	しばしばある	たまにある	まったくない
有配偶	全体	735	6.7	13.2	53.1	27.1
	男性	272	4.4	9.2	49.3	37.1
	女性	463	8.0	15.6	55.3	21.2
無配偶	全体	28	3.6	17.9	50.0	28.6
	男性	6	-	16.7	16.7	66.7
	女性	22	4.5	18.2	59.1	18.2

有配偶・男女　$p<.001$　$\chi^2= 25.849$

同様に身体的虐待傾向である「(カ) 怒って、子どもを押入れや浴室に閉じこめたり、家の外（ベランダなど）に出すこと」について、有配偶全体の 85.9%が「まったくない」と回答している。言い換えれば「たまにある」「しばしばある」とする者は、合計で 14.1%となる。また、この項目については、他の項目とは異なり、男女の違いは見られなかった（表 3-11)。

表 3- 11（カ）怒って、子どもを押入れや浴室に閉じこめたり、家の外（ベランダなど）に出すこと（%）

		N	よくある	しばしばある	たまにある	まったくない
有配偶	全体	736	-	0.8	13.3	85.9
	男性	272	-	1.1	11.0	87.9
	女性	464	-	0.6	14.7	84.7
無配偶	全体	28	-	3.6	7.1	89.3
	男性	6	-	-	33.3	66.7
	女性	22	-	4.5	-	95.5

有配偶・男女　n. s.

心理的虐待傾向にある「(ク) 子どもが傷つくようなことを言うこと」について、有配偶全体の 39.7%が「まったくいない」と回答している一方で、「よくある」1.9%、「しばしばある」6.8%、「たまにある」は 51.6%にのぼる。男女間に違いが見られ、女性では「まったくない」は 30.2%にとどまり、「よくある」1.9%、「しばしばある」7.3%、「たまにある」は 60.5%にのぼり、男性よりも 14.2 ポイントも高い（表 3-12)。

表 3- 12（ク）子どもが傷つくようなことを言うこと　(%)

		N	よくある	しばしばある	たまにある	まったくない
有配偶	全体	733	1.9	6.8	51.6	39.7
	男性	270	1.9	5.9	36.3	55.9
	女性	463	1.9	7.3	60.5	30.2
無配偶	全体	28	3.6	3.6	57.1	35.7
	男性	6	-	-	16.7	83.3
	女性	22	4.5	4.5	68.2	22.7

有配偶・男女　$p<.001$　$\chi^2= 48.192$

4）養育態度やしつけの様子-小括-

以上、子どもに対する回答者のしつけ・養育態度について、有配偶・男女別の集計を主に見てきた。各項目の頻度そのものが高いのか低いのかは簡単に言うことは出来ないが、男女別の違いは明確に現れていた。

第１に、対話的、受容的しつけ・養育態度に関しては、女性の方が子どもによく話しかけ、子どもを理解しようとしていることがわかった。

第２に、子どもの自立を促すようなしつけ、子どもを統制しない養育態度としてとりあげた「子ども自身に物事を決めさせること」に関しては、つまり子どもに積極的に関わる事に関しては、男性の方が「まったくない」とする割合は高く、逆に「子どもが希望するまでは何もしないでおくこと」という消極的な関わりとも考えられる項目については、男性の方が「よくある」とする割合が高い。さらに、ルーズなしつけであり、やはり消極的な態度である「子どものわがままを許してしまうこと」も男性の方が「よくある」とする割合が高い。

第３に、ネグレクト、身体的虐待、心理的虐待に対応させた虐待的な傾向を持つ養育態度については、「怒って、子どもを押入れや浴室に閉じこめたり、家の外（ベランダなど）に出すこと」を除けば、女性の方が全ての項目で行う頻度は高かった。

現在の状況では女性、つまり母親の方が男性つまり父親に比べて子どもとすごす時間は圧倒的に長く、また、子育てにより深く関わっているために、対話的、受容的しつけ・養育態度にしても、自立促進的、非統制的なしつけ・養育態度でも積極的な関わりは女性の行為の頻度が高く、消極的なものは男性の行為の頻度が高いという結果になったのであろう。虐待的傾向も、男性よりも女性の行為の頻度が高いのは、子どもとすごす時間の長さや、子育ての責任・負担感の違いから来るのではないかと考えられる。

（２） 子育てにおけるサポート資源

ここでは同居している子どもがいるケースに限り、子育て上の援助・相談相手について分析した。無配偶者のうち子どもがいるケースは24名と少なかったので、参考のために集計値は掲載しているが、ここでは分析は行わない。

１） 子どもの世話を頼むことができる人・機関

「急用ができて子どもの世話を頼まなければならないとき」に頼りにする人として、配偶者をあげているのは、有配偶全体では 48.6%であり、男女別にみてもその間に違いはみられない（表 3-13)。最も多くの回答者が頼りにしているのは、自分の親で有配偶全体の60.7%があげている。ついで多いのは、配偶者の親であるが、男性の 60.6%があげているにもかかわらず、女性では 44.6%しかあげていない。自分の兄弟姉妹を頼りにしているのは、男性では12.3%にすぎないが、女性では21.9%である。配偶者の兄弟姉妹は男性と女性の間に違いはなく、有配偶全体でも9.0%と低い。女性は配偶者の親や配偶者のきょうだいよりも、自分の親や自分のきょうだいを頼りになる人として多くあげているのに対し、男性は自分の親やきょうだいと配偶者の親やきょうだいの間に違いはなく、むしろ自分の親をあげる割合よりも配偶者の親をあげる割合の方が、わずかではあるが高い。また、子どもの世話を頼める相手として、その他の親族はほとんどあげられていない。

親族以外では友人や職場の同僚が相対的には高く、有配偶全体の 19.0%があげている。男女間に違いがみられ、女性では19.0%、男性では5.6%と男性の方が13.4ポイント低い。親族以外で次に高いのは、近所の人であり、有配偶全体で 11.9%である。近所の人を頼りにしているかどうかでも男女の違いがあり、男性 5.9%、女性 15.4%と女性の方が高い。専門家・機関、サービスなどをあげた回答者は少なく有配偶全体では7.9%にとどまる。これも男女差があり男性4.8%、女性9.7%で女性の方が高い。

表 3- 13 急用ができて子どもの世話を頼まなければならないときに頼りにする人・機関 (M.A.) (%)

		N	配偶者	自分の親	配偶者の親	自分の兄弟姉妹	配偶者の兄弟姉妹	自分の子ども	子どもの配偶者	その他の親族	友人や職場の同僚	近所の人	専門家・機関	誰もいない
有配偶	全体	731	48.6	60.7	50.6	18.3	9.0	0.7	-	1.9	14.1	11.9	7.9	1.0
	男性	269	49.1	59.5	60.6	12.3	11.2	-	-	1.5	5.6	5.9	4.8	1.1
	女性	462	48.3	61.5	44.8	21.9	7.8	1.1	-	2.2	19.0	15.4	9.7	0.9
無配偶	全体	24	-	54.2	4.2	37.5	-	0.3	-	12.5	29.2	16.7	-	8.3
	男性	3	-	100.0	-	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3	-	-
	女性	21	-	47.6	4.8	38.1	-	0.7	-	9.5	33.3	14.3	-	9.5

有配偶・男女　自分の親：p<.001　χ^2= 16.96
配偶者の親：p<.01　χ^2=10.45
友人や職場の同僚：：p<.001　χ^2=25.49
近所の人：：p<.001　χ^2=14.39
専門家・機関：p<.05　χ^2=5.61

2） 子どもについての悩み事や心配事を相談できる人・機関

次に、「子どもについての悩みや心配事があるとき」に頼りにする人・機関についての集計をみてみよう（表 3-14)。「子どもの世話」とは異なり、相談については、もっとも多くあげられているのは配偶者である。有配偶全体の 84.5%があげている。しかし、男女で違いがあり、男性の 89.6%があげているが、女性は 81.6%にとどまる。つまり、夫が妻を頼りにする割合よりも、妻が夫を頼りにしている割合は低い。自分の親をあげているのは、有配偶全体の 55.2%であるが、男女で違いがある。女性は 61.5%が自分の親をあげているのに対し、男性が自分の親をあげているのは 44. 4%に過ぎない。配偶者の親についても男女の違いがある。女性は 25. 5%しか配偶者の親を相談相手としてあげていないが、男性は 34.3%が配偶者の親をあげている。自分のきょうだいについても男女差があり、女性は自分のきょうだいをあげる割合は 28.1%であるのに対し、男性は 15.7%にすぎない。男性は配偶者以外には、子どもについての悩みや相談事をする親族が少なく、女性は自分の親や

きょうだいを頼りにしているといえよう。また、配偶者のきょうだい、その他の親族などを頼りにしている人はほとんどいなかった。

親族以外についてみてみると、友人や職場の同僚について女性は48.9%があげているが、男性は 19.8%しかあげていない。男女間で大きな違いがみられる。また、近所の人についても男女差があり、女性は15.6%があげているが、男性は3.0%にすぎない。専門家・機関なども同様で、女性の12.8%があげているが、男性は6.3%しかあげていない。男性に比べると、女性は親族以外の相談相手がいる傾向がある。

表3- 14 子どもについての悩みや心配ごとがあるときに頼りにする人・機関 (M.A.) (%)

		N	配偶者	自分の親	配偶者の親	自分の兄弟姉妹	配偶者の兄弟姉妹	自分の子ども
有配偶	全体	730	84.5	55.2	28.8	23.6	5.5	0.8
	男性	268	89.6	44.4	34.3	15.7	6.3	-
	女性	462	81.6	61.5	25.5	28.1	5.0	1.3
無配偶	全体	24	8.3	54.2	4.2	45.8	4.2	4.2
	男性	3	-	66.7	-	1.0	-	-
	女性	21	9.5	52.4	4.8	38.1	4.8	4.8

子どもの配偶者	その他の親族	友人や職場の同僚	近所の人	専門家・機関	誰もいない
-	2.3	38.2	11.0	10.4	0.1
-	1.9	19.8	3.0	6.3	0.4
-	2.6	48.9	15.6	12.8	-
4.2	-	50.0	4.2	12.5	8.3
-	-	-	-	-	-
4.8	-	57.1	4.8	14.3	9.5

有配偶・男女

配偶者：$p<.01$　$\chi^2=8.20$

自分の親：$p<.001$　$\chi^2=19.98$

配偶者の親：$p<.05$　$\chi^2=6.39$

自分の兄弟姉妹：$p<.001$　$\chi^2=14.64$

友人や職場の同僚：：$p<.001$　$\chi^2=61.00$

近所の人：：$p<.001$　$\chi^2=27.59$

専門家・機関：$p<.05$　$\chi^2=7.51$

3）子育てにおけるサポート資源-小括-

「急用ができて子どもの世話を頼まなければならないとき」に頼る人・機関として最も多くあげられているのは、女性は自分の親、男性は配偶者の親、つまり妻の親がもっとも多くの回答者から頼りにする人としてあげられている。妻の親を頼りにしているのは6割程度にものぼり、配偶者を頼りにしている人の割合（5割）よりも高い。友人、近隣、専門家やサービスなどを頼りにしている人は、きわめて少ないが、いずれも男性に比べると女性の方が友人、近隣、専門家やサービスをあげている割合は高い。

「子どもについての悩みや心配事があるとき」に頼る人・機関として最も多くあげられているのは、配偶者である。しかし、配偶者をあげているのは男性では9割近くにのぼるが、女性では8割程度にとどまっている。この項目でも親に頼る人の割合は高いが、女性の場合は、友人を上げる割合はほぼ5割である。それに比べて近隣や専門家・サービスなどを上げる割合はかなり低い。そして友人、近隣、専門家・サービスいずれについても女性の方が男性よりも、それらを頼るとする割合は高い。

現在子育てをしている人たちにとって支援となっているのは、主に配偶者と妻の親である。近隣の人や専門家・サービスがあげられる割合は低く、家族関係がうまくいかない場合の、あるいは近くに家族が住んでいない場合には、子育ては孤独な者となる確率がかなり高い。子育ての悩み相談などにおいては、女性は友人を頼りとしているが、男性にとって子育てを支援してもらえる先の選択肢は非常に少ない。男性が子育てにかかわるためには「時間」だけではなく、男性にとって子育てを共有できる（家庭以外の）「場」が必要である。

（永井暁子）

4章　子産み・子育ての意識におけるジェンダー構造

（1）　子産み・子育てがもたらすよい面

子産み・子育てがもたらすよい面として、本調査では、「家族の結びつきが深まる」、「子どもとのふれあいが楽しい」、「仕事に、はりあいができる」、「子育てを通じて自分の友人が増える」、「子育てを通じて人間的に成長できる」の５項目を取り上げる。

1）　男女の違い

まず始めに、男女別の意識の違いをみておこう。表 4-1 から表 4-5 である。これら５項目のなかで、「家族の結びつきが深まる」「仕事に、はりあいができる」の２項目については、男性が女性よりも、子産み・子育てのよい面と捉える傾向が高い。他方、「子育てを通じて自分の友人が増える」「子育てを通じて自分が成長できる」の２項目は、女性が男性よりも、子産み・子育てのよい面と捉える傾向が高い。「子どもとのふれあいが楽しい」ことについては、男女差はみられない。これらの点を確認したうえで、どのような条件のもとで、性差があらわれるのか、もう少し詳しく検討しよう。

表 4- 1（ア）家族の結びつきが深まる　(%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1229	73.1	23.2	1.4	2.4
男性	543	74.2	20.6	1.7	3.5
女性	686	72.2	25.2	1.2	1.5

男女差　p<.05

表 4- 2（イ）子どもとのふれあいが楽しい　(%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1227	72.8	24.0	1.9	1.3
男性	541	73.6	22.9	1.5	2.0
女性	686	72.2	24.9	2.2	0.7

男女差　n.s.

表 4- 3（ウ）仕事に、はりあいができる　(%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1224	53.5	35.4	7.2	3.9
男性	543	60.0	30.8	4.6	4.6
女性	681	48.3	39.1	9.3	3.4

男女差　p<.001

表 4- 4（オ）子育てを通じて自分の友人が増える　(%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1224	44.8	37.2	12.6	5.5
男性	541	31.1	41.8	17.9	9.2
女性	683	55.6	33.5	8.3	2.5

男女差　p<.001

表 4- 5（カ）子育てを通じて人間的に成長できる　(%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1225	68.1	27.8	2.6	1.6
男性	542	61.3	32.1	4.4	2.2
女性	683	73.5	24.3	1.2	1.0

男女差　p<.001

2）　配偶状態による違い

次に、有配偶者と無配偶者別に検討し、そのうえで、有配偶者、無配偶者それぞれについて、男女差を検討する。「家族の結びつきが深まる」という意識は、配偶状態によって異なる。すなわち、有配偶者は、無配偶者よりもよい面として捉える傾向が有意に高い。男女差については、有配偶者においてのみ、男性のほうが女性よりもよい面として捉える傾向が若干高い。無配偶者では、男女差はみられない（表 4-6）。

「子どもとのふれあいが楽しい」では、有配偶か無配偶かという配偶状態と関連が高く、有配偶者では、子産み・子育てのよい面として捉える傾向が高い。ただし、有配偶者も無配偶者も男女差は見られない（表 4-7）。

「仕事に、はりあいができる」と思うかどうかについてみると、配偶状態による差は観られない。ただし、有配偶者の場合も、未婚者の場合も、男性が女性よりも「そう思う」と支持する傾向が有意に高い結果になっている（表 4-8）。

「子育てを通じて自分の友人が増える」については、配偶状態と関連する。有配偶者は無配偶者よりも「そう思う」の比率が 10%以上も高い。そして、有配偶では、男女差が顕著であり、有配偶女性では、全体の 60%が「そう思う」と回答している。女性は、有配偶と無配偶とで差が大きいが、男性では、有配偶と無配偶との差はみられないのである（表 4-9）。

「子育てを通じて人間的に成長できる」では、配偶状態によって有意差があり、有配偶者のほうがよい面と捉える傾向が高い。また、有配偶において男女差があり、有配偶女性のほうがよい面ととらえる比率が高い。ただし、無配偶では男女差はみられない（表 4-10）。

表 4- 6（ア）家族の結びつきが深まる（配偶状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	861	76.9	20.2	1.0	1.9
	男性	344	78.5	17.4	0.9	3.2
	女性	517	75.8	22.1	1.2	1.0
無配偶	全体	368	64.1	30.2	2.2	3.5
	男性	199	66.8	26.1	3.0	4.0
	女性	169	60.9	34.9	1.2	3.0

配偶状態　p<.001　有配偶・男女 p<.05　無配偶・男女　n.s.

表 4- 7（イ）子どもとのふれあいが楽しい（配偶状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	861	76.9	20.2	1.0	1.9
	男性	344	78.5	17.4	0.9	3.2
	女性	517	75.8	22.1	1.2	1.0
無配偶	全体	368	64.1	30.2	2.2	3.5
	男性	199	66.8	26.1	3.0	4.0
	女性	169	60.9	34.9	1.2	3.0

配偶状態　p<.001　有配偶・男女 p<.05　無配偶・男女　n.s.

表 4- 8（ウ）仕事に、はりあいができる（配偶状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	856	54.3	35.3	6.7	3.7
	男性	344	61.0	30.5	4.1	4.4
	女性	512	49.8	38.5	8.4	3.3
無配偶	全体	368	51.6	35.6	8.4	4.3
	男性	199	58.3	31.2	5.5	5.0
	女性	169	43.8	40.8	11.8	3.6

配偶状態　n.s.　有配偶・男女 p<.01　無配偶・男女　<.05

表 4- 9（オ）子育てを通じて自分の友人が増える（配偶状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	860	48.5	33.6	13.0	4.9
	男性	344	31.1	38.7	20.3	9.9
	女性	516	60.1	30.2	8.2	1.6
無配偶	全体	364	36.0	45.6	11.5	6.9
	男性	197	31.0	47.2	13.7	8.1
	女性	167	41.9	43.7	9.0	5.4

配偶状態　p<.001　有配偶・男女　p<.001　無配偶・男女　n.s.

表 4- 10（カ）子育てを通じて人間的に成長できる（配偶状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	861	69.8	27.5	2.0	0.7
	男性	344	62.2	33.1	3.5	1.2
	女性	517	74.9	23.8	1.0	0.4
無配偶	全体	364	64.0	28.3	4.1	3.6
	男性	198	59.6	30.3	6.1	4.0
	女性	166	69.3	25.9	1.8	3.0

配偶状態　p<.001　有配偶・男女　p<.001　無配偶・男女　n.s.

3）　子どもの有無による違い

今度は、子どもの有無によって、意識の違いをみる。表 4-11 から表 4-15 で明らかなように、「家族の結びつきが深まる」「子どもとのふれあいが楽しい」「仕事に、はりあいができる」「子育てを通じて自分の友人がふえる」「子育てを通じて人間的に成長できる」というすべての項目において、子どものいない人よりも子どものいる人のほうが、子産み・子育てのよい面であると捉える傾向が高い。

また、「仕事に、はりあいができる」という項目については、子どものいる場合も、いない場合も、男性が女性よりもよい面と捉える傾向が有意に高い。

反対に、「子育てを通じて自分の友人が増える」という項目については、子どものいる場合も、いない場合も、女性が男性よりもよい面と捉える傾向が有意に高い。そして、「子育てを通じて人間的に成長できる」という項目については、子どものいる場合にのみ、女性が男性よりもよい面と捉える傾向が高くなっている。

なお、データは、省略するが、子どものいる人だけを対象に、子ども数が、子産み・子育てのよい面についての評価と関連するかどうかについて、男女別に検討したが、いずれの項目の場合も統計的な有意差は認められなかった

表 4- 11（ア）家族の結びつきが深まる（子ども有無別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
子ども無	全体	436	65.6	28.4	1.8	4.1
	男性	244	66.4	25.8	2.5	5.3
	女性	192	64.6	31.8	1.0	2.6
子ども有	全体	762	77.7	20.1	1.0	1.2
	男性	278	81.7	16.2	0.7	1.4
	女性	484	75.4	22.3	1.2	1.0

子どもの有無　p<.001　子ども無・男女　n.s.　子ども有・男女　n.s.

表 4- 12（イ）子どもとのふれあいが楽しい（子ども有無別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
子ども無	全体	434	62.0	31.1	3.9	3.0
	男性	243	63.4	30.5	2.1	4.1
	女性	191	60.2	31.9	6.3	1.6
子ども有	全体	762	79.1	19.9	0.5	0.4
	男性	277	83.0	15.9	0.7	0.4
	女性	485	76.9	22.3	0.4	0.4

子どもの有無　p<.001　子ども無・男女　n.s.　子ども有・男女　n.s.

表 4- 13（ウ）仕事に、はりあいができる（子ども有無別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
子ども無	全体	436	50.7	34.9	9.2	5.3
	男性	244	57.0	31.1	5.7	6.1
	女性	192	42.7	39.6	13.5	4.2
子ども有	全体	757	55.4	35.4	6.1	3.2
	男性	278	62.9	30.2	3.6	3.2
	女性	479	50.9	38.4	7.5	3.1

子どもの有無　p<.05　子ども無・男女　p<.01　子ども有・男女　p<.01

表 4- 14（オ）子育てを通じて自分の友人が増える（子ども有無別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
子ども無	全体	431	37.1	43.4	12.5	7.0
	男性	242	31.8	44.2	14.5	9.5
	女性	189	43.9	42.3	10.1	3.7
子ども有	全体	762	49.5	33.3	12.5	4.7
	男性	278	29.5	40.3	20.9	9.4
	女性	484	61.0	29.3	7.6	2.1

子どもの有無　p<.001　子ども無・男女　p<.01　子ども有・男女　p<.001

表 4- 15（カ）子育てを通じて人間的に成長できる（子ども有無別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
子ども無	全体	432	63.7	29.2	3.7	3.5
	男性	243	58.8	32.1	4.9	4.1
	女性	189	69.8	25.4	2.1	2.6
子ども有	全体	762	71.0	26.9	1.7	0.4
	男性	278	63.7	32.7	3.2	0.4
	女性	484	75.2	23.6	0.8	0.4

子どもの有無　p<.001　子ども無・男女　n.s.　子ども有・男女　p<.001

4） 就業状態による違い

子産み・子育てについてのよい面の評価が、現在の就労状況と関連があるかどうか検討する。

「家族の結びつきが深まる」という項目については、有職者と無職者とでは、子産み・子育てのよい面としての捉え方に差はみられない。また、有職者、無職者それぞれの男女差もみられない（表 4-16）。

「子どもとのふれあいが楽しい」という意識も、就労状態との関連はみられない。しかし、有職者のなかで男女差がみられ、男性よりも女性のほうが、よい面として捉える傾向が高い。また、無職者のなかでも男女差がみられ、こちらは、女性のほうが男性よりもよい面と捉える傾向が高いことがわかる（表 4-17）。

「仕事に、はりあいができる」については、就労状態と関連はみられないが、有職者のなかで、男性は女性よりも、子産み・子育てのよい面と捉える傾向が有意に高くなっている。ただし、無職者においては、男女差はみられない（表 4-18）。

「子育てを通じて、自分の友人が増える」（表 4-19）と「子育てを通じて、人間的に成長できる」（表 4-20）とは、就労状態において有意差があり、しかも、有職者の場合も、無職者の場合も、女性が男性よりも子産み・子育てのよい面と捉える傾向が有意に高くなっている。

表 4- 16（ア）家族の結びつきが深まる（就業状態別） (%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有職	全体	877	71.8	23.7	1.5	3.0
	男性	510	74.3	20.6	1.6	3.5
	女性	367	68.4	28.1	1.4	2.2
無職	全体	352	76.1	21.9	1.1	0.9
	男性	33	72.7	21.2	3.0	3.0
	女性	319	76.5	21.9	0.9	0.6

就業状態 n.s. 有職・男女 n.s. 無職・男女 n.s.

表 4- 17（イ）子どもとのふれあいが楽しい（就業状態別） (%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有職	全体	875	71.4	24.8	2.3	1.5
	男性	508	74.2	22.6	1.4	1.8
	女性	367	67.6	27.8	3.5	1.1
無職	全体	352	76.1	22.2	0.9	0.9
	男性	33	63.6	27.3	3.0	2.0
	女性	319	77.4	21.6	0.6	0.3

就業状態 n.s. 有職・男女 $p<.05$ 無職・男女 $p<.01$

表 4- 18（ウ）仕事に、はりあいができる（就業状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有職	全体	878	54.0	34.9	7.2	4.0
	男性	510	59.4	31.2	4.7	4.7
	女性	368	46.5	39.9	10.6	3.0
無職	全体	346	52.3	36.7	7.2	3.8
	男性	33	69.7	24.2	3.0	3.0
	女性	313	50.5	38.0	7.7	3.8

就業状態　n.s.　有職・男女　p<.001　無職・男女　n.s.

表 4- 19（オ）子育てを通じて自分の友人が増える（就業状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有職	全体	873	39.9	39.4	13.9	6.9
	男性	509	31.0	42.2	17.5	9.2
	女性	364	52.2	35.4	8.8	3.6
無職	全体	351	57.0	31.6	9.4	2.0
	男性	32	31.3	34.4	25.0	9.4
	女性	319	59.6	31.3	7.8	1.3

就業状態　p<.001　有職・男女　p<.001　無職・男女　p<.001

表 4- 20（カ）子育てを通じて、人間的に成長できる（就業状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有職	全体	874	65.1	30.0	3.0	1.9
	男性	509	60.9	32.6	4.3	2.2
	女性	365	71.0	26.3	1.1	1.6
無職	全体	351	75.5	22.2	1.7	0.6
	男性	33	66.7	24.2	6.1	3.0
	女性	318	76.4	22.0	1.3	0.3

就業状態　p<.01　有職・男女　p<.01　無職・男女　p<.05

5）　学歴による違い

学歴との関連も検討しておく。

「家族の結びつきが深まる」という項目は、学歴が高くなるほど、子産み・子育てのよい面として捉える傾向が高くなる。しかし、中学・高校卒では、女性が男性よりもその傾向がやや高く、短大・高専では男女差がなく、そして、大学以上では、男性のほうが女性よりも高くなっている（表 4-21）。

「子どもとのふれあいが楽しい」ことでは、学歴差はなく、また、いずれの学歴でも男

女差はない（表 4-22）。

「仕事に、はりあいができる」ことでは、学歴が高くなるほど、子産み・子育てのよい面と捉える傾向が高くなる。また、中学・高校卒では、男女差はないが、短大・高専と大学以上では男女差が顕著である（表 4-23）。

「子育てを通じて自分の友人が増える」ことでは、学歴との関連があり、短大・高専が子産み・子育てのよい面と捉える比率が最も高い傾向にある。また、いずれの学歴でも、女性が男性よりも「そう思う」比率が高くなっている（表 4-24）。

「子育てを通じて人間的に成長できる」ことでは、学歴が高くなるほど「そう思う」比率が高くなっている。男女差については、中学・高校卒と短大・高専では、女性が男性よりも子産み・子育てのよい面と捉える傾向が高いが、大学以上では、男女差はみられない（表 4-25）。

表 4- 21（ア）家族の結びつきが深まる（学歴別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
中学・高校卒	全体	541	65.8	30.5	1.1	2.6
	男性	242	64.0	29.8	2.5	3.7
	女性	299	67.2	31.1		1.7
短大・高専	全体	384	77.6	19.3	1.6	1.6
	男性	101	77.2	19.8		3.0
	女性	283	77.7	19.1	2.1	1.1
大学以上	全体	294	80.3	15.0	1.7	3.1
	男性	194	85.1	9.8	1.5	3.6
	女性	100	71.0	25.0	2.0	2.0

学歴　p<.001　中学・高校卒・男女　p<.05　専門・短大・高専・男女　n.s.　大学以上・男女　p<.01

表 4- 22（イ）子どもとのふれあいが楽しい（学歴別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
中学・高校卒	全体	540	69.1	27.8	1.9	1.3
	男性	240	69.6	25.8	2.5	2.1
	女性	300	68.7	29.3	1.3	0.7
短大・高専	全体	383	74.7	22.2	1.8	1.3
	男性	101	73.3	24.8		2.0
	女性	282	75.2	21.3	2.5	1.1
大学以上	全体	294	77.2	19.4	2.0	1.4
	男性	194	78.4	18.6	1.0	2.1
	女性	100	75.0	21.0	4.0	−

学歴　n.s.　中学・高校卒・男女　n.s.　短大・高専・男女　n.s.　大学以上・男女　n.s.

表4- 23（ウ）仕事に、はりあいができる（学歴別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
中学・高校卒	全体	539	51.0	38.4	6.7	3.9
	男性	242	52.9	34.7	7.4	5.0
	女性	297	49.5	41.4	6.1	3.0
短大・高専	全体	382	49.7	38.7	7.3	4.2
	男性	101	61.4	33.7	1.0	4.0
	女性	281	45.6	40.6	9.6	4.3
大学以上	全体	293	62.5	25.9	8.2	3.4
	男性	194	67.5	25.3	3.1	4.1
	女性	99	52.5	27.3	18.2	2.0

学歴　p<.05　中学・高校卒・男女　n.s.　専門・短大・高専・男女　p<.01　大学以上・男女　p<.001

表4- 24（オ）子育てを通じて自分の友人が増える（学歴別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
中学・高校卒	全体	538	42.6	37.9	12.5	7.1
	男性	241	27.0	44.4	17.8	10.8
	女性	297	55.2	32.7	8.1	4.0
短大・高専	全体	382	50.8	35.6	10.7	2.9
	男性	100	28.0	44.0	21.0	7.0
	女性	282	58.9	32.6	7.1	1.4
大学以上	全体	294	40.8	37.8	15.6	5.8
	男性	194	37.6	36.6	15.6	8.8
	女性	100	47.0	40.0	15.6	-

学歴　p<.05　中学・高校卒・男女　p<.001　短大・高専・男女　p<.001　大学以上・男女　p<.05

表4- 25（カ）子育てを通じて、人間的に成長できる（学歴別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
中学・高校卒	全体	538	62.1	32.2	4.1	1.7
	男性	241	53.1	36.5	8.3	2.1
	女性	297	69.4	28.6	0.7	1.3
短大・高専	全体	383	72.3	23.8	2.3	1.6
	男性	101	60.4	32.7	4.0	3.0
	女性	282	76.6	20.6	1.8	1.1
大学以上	全体	294	72.8	25.5	0.3	1.4
	男性	194	70.6	27.3	-	2.1
	女性	100	77.0	22.0	1.0	-

学歴　p<.01　中学・高校卒・男女　p<.001　短大・高専・男女　p<.05　大学以上・男女　n.s.

6） 子産み・子育てがもたらすよい面：小括

子産み・子育てのよい面の評価のし方について、用意した項目ごとに、性差のあらわれ方や基本的属性との関連の仕方が異なることがわかった。

①「家族の結びつきが深まる」ことと「仕事に、はりあいができる」ことは、男性が女性よりも子産み・子育てのよい面と捉える傾向が高く、「子育てを通じて自分の友人が増える」「子育てを通じて、自分が成長できる」の２項目は、女性が男性よりも、子産み・子育てのよい面と捉える傾向が高い。

②総じて、子産み・子育てのよい面の捉え方は、無配偶よりは有配偶のほうが、また、子どものいない人よりはいる人のほうが、より積極的に評価する傾向がみられる。

③就業状態別に、男女の違いと「子どもとのふれあいが楽しい」との関連をみたところ、有職男性が有職女性よりも、また、無職女性が無職男性よりも、より積極的に評価しており、対称的な傾向が見られる。

④「子育てを通じて人間的に成長できる」ことについて、全体としては、性差が大きいが、学歴とも関連しており、大学以上では男女差はみられなかったのは興味深い。

（２）子産み・子育てにともなう負担

子産み・子育ての負担感については、「子育てによる心身の疲れが大きい」、「子育てで出費がかさむ」、「自分の自由な時間がもてなくなる」、「仕事が十分にできなくなる」、「子育てがたいへんなことを身近な人が理解してくれない」、「社会から取り残されたような気になる」という５種の意識について検討する。

1） 男女の違い

表 4-26 から表 4-31 で明らかなように、子産み・子育ての負担感は、すべての項目において、男女差があらわれており、女性が男性よりも、負担感を感じている。

そこで、次に、もう少し詳しくみてみよう。

表 4- 26（キ）子育てによる心身の疲れが大きい (%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1223	22.8	40.5	25.1	11.6
男性	541	15.9	38.8	29.0	16.3
女性	682	28.3	41.8	22.0	7.9

男女差 p<.001

表 4- 27（ク）子育てで出費がかさむ (%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1222	42.6	44.1	9.2	4.1
男性	540	41.1	41.1	12.2	5.6
女性	682	43.7	46.5	6.9	2.9

男女差　p<.01

表 4- 28（ア）家族の結びつきが深まる (%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1222	35.8	44.9	12.4	6.9
男性	538	29.6	44.1	16.5	9.9
女性	684	40.6	45.6	9.2	4.5

男女差　p<.001

表 4- 29（コ）仕事が十分にできなくなる (%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1221	18.1	32.4	26.4	23.2
男性	541	5.7	15.2	39.0	40.1
女性	680	27.9	46.0	16.3	9.7

男女差　p<.001

表 4- 30（サ）子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない (%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1220	5.2	15.2	39.9	39.7
男性	540	5.0	10.7	34.8	49.4
女性	680	5.4	18.7	44.0	31.9

男女差　p<.001

表 4- 31（シ）社会から取り残されたような気になる (%)

	N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
全体	1222	6.3	12.8	27.2	53.7
男性	540	3.1	4.3	22.0	70.6
女性	682	8.8	19.6	31.2	40.3

男女差　p<.001

2） 配偶状態による違い

表 4-32 から表 4-37 によると、子産み・子育てにともなう負担感に関するいずれの項目も、有配偶と無配偶とでは、有意差が認められる。ところが、いずれの項目についても、有配偶者よりも無配偶者のほうが、子産み・子育ての負担感が高いのである。ただし、有配偶と無配偶とに分けて、男女比較をすると、有配偶者では、いずれの項目でも女性の負担感が男性よりも有意に高くなっている。無配偶者では、「子育てで出費がかさむ」ことだけが、男女の有意差がみられないものの、他の項目のいずれにおいても、女性のほうが男性よりも子産み・子育ての負担感が高くなっている。

表 4- 32（キ）子育てによる心身の疲れが大きい（配偶状態別） (%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	862	21.2	37.9	27.7	13.1
	男性	344	12.2	35.2	33.4	19.2
	女性	518	27.2	39.8	23.9	9.1
無配偶	全体	361	26.6	46.5	18.8	8.0
	男性	197	22.3	45.2	21.3	11.2
	女性	164	31.7	48.2	15.9	4.3

配偶状態 p<.001 有配偶・男女 p<.001 無配偶・男女 p<.05

表 4- 33（ク）子育てで出費がかさむ（配偶状態別） (%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	860	39.2	44.3	12.0	4.5
	男性	344	35.8	40.4	17.7	6.1
	女性	516	41.5	46.9	8.2	3.5
無配偶	全体	362	50.6	43.6	2.8	3.0
	男性	196	50.5	42.3	2.6	4.6
	女性	166	50.6	45.2	3.0	1.2

配偶状態 p<.001 有配偶・男女 p<.001 無配偶・男女 n.s.

表 4- 34（ケ）自分の自由な時間がもてなくなる（配偶状態別） (%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	861	33.2	45.5	13.5	7.8
	男性	343	25.4	44.9	17.8	12.0
	女性	518	38.4	45.9	10.6	26.0
無配偶	全体	361	41.8	43.5	10.0	4.7
	男性	195	36.9	42.6	14.4	6.2
	女性	166	47.6	44.6	4.8	3.0

配偶状態 p<.01 有配偶・男女 P<.001 無配偶・男女 p<.01

表 4- 35（コ）仕事が十分にできなくなる（配偶状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	857	17.2	32.1	25.2	25.6
	男性	344	4.7	14.0	34.6	46.8
	女性	513	25.5	44.2	18.9	11.3
無配偶	全体	364	20.3	33.0	29.1	17.6
	男性	197	7.6	17.3	46.7	28.4
	女性	167	35.3	51.5	8.4	4.8

配偶状態　p<.05　有配偶・男女　p<.001　無配偶・男女　p<.001

表 4- 36(サ)子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない(配偶状態別)　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	858	4.0	14.6	38.2	43.2
	男性	344	2.6	8.7	32.8	55.8
	女性	514	4.9	18.5	41.8	34.8
無配偶	全体	362	8.3	16.6	43.9	31.2
	男性	196	9.2	14.3	38.3	38.3
	女性	166	7.2	19.3	50.6	22.9

配偶状態　p<.001　有配偶・男女　p<.001　無配偶・男女　p<.001

表 4- 37（シ）社会から取り残されたような気になる（配偶状態別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
有配偶	全体	859	6.9	13.2	24.6	55.4
	男性	344	2.9	2.6	18.6	75.9
	女性	515	9.5	20.2	28.5	41.7
無配偶	全体	363	5.0	12.1	33.3	49.6
	男性	196	3.6	7.1	28.1	61.2
	女性	167	6.6	18.0	39.5	35.9

配偶状態　p<.05　有配偶・男女　p<.001　無配偶・男女　p<.001

3）　子どもの有無による違い

今度は、子どもがいる場合といない場合と、子産み・子育てにともなう負担感が異なるのかどうか検討する。合わせて、性差もみる。

表 4-38 から表 4-43 のなかで、「社会から取り残されるような気になる」という子産み・子育てにともなう負担感では、子どもの有無による有意差はないが、そのほかの５項目すべてにおいて、子どものいない人のほうが子どものいる人よりも負担感を抱いていることがわかる。また、「子育てで出費がかさむ」という負担感では、子どものいない男女の間で

差がないが、そのほかの項目では、いずれも、子どもがいる、子どもがいないにかかわりなく、女性のほうが男性よりも負担感をいただいていることがわかる。総じて、子どものいる男性において、いずれの項目においても、負担感が低い傾向にある。

表 4- 38（キ）子育てによる心身の疲れが大きい（子ども有無別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
子ども無	全体	430	27.4	47.4	17.9	7.2
	男性	243	21.8	46.5	21.0	10.7
	女性	187	34.8	48.7	13.9	2.7
子ども有	全体	763	20.1	36.0	29.6	14.3
	男性	278	10.8	30.9	36.7	21.6
	女性	485	25.4	39.0	25.6	10.1

子どもの有無　p<.001 子ども無・男女　p<.001　子ども有・男女　p>.001

表 4- 39（ク）子育てで出費がかさむ（子ども有無別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
子ども無	全体	431	50.8	42.5	3.9	2.8
	男性	242	48.3	43.0	4.5	4.1
	女性	189	54.0	41.8	3.2	1.1
子ども有	全体	761	37.6	44.9	12.6	4.9
	男性	278	34.9	38.5	19.8	6.8
	女性	483	39.1	48.7	8.5	3.7

子どもの有無　p<.001　子ども無・男女　n.s.　子ども有・男女　p<.001

表 4- 40（ケ）自分の自由な時間がもてなくなる（子ども有無別）　(%)

		N	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
子ども無	全体	431	44.8	41.5	8.8	4.9
	男性	242	39.3	39.3	14.5	7.0
	女性	189	51.9	44.4	1.6	2.1
子ども有	全体	762	30.8	46.2	14.7	8.3
	男性	277	22.0	45.8	19.1	13.0
	女性	485	35.9	46.4	12.2	5.6

子どもの有無　p<.001 子ども無・男女　p<.001　子ども有・男女　p>.001